明治四十三年十二月十五日發行
毎月一回十五日發行
明治四十二年三月十二日第三種郵便物認可

婦人新報

第百六十二號

日本基督教婦人矯風會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人新報第百六十一號

目次

○社説

△市民の威信と醜業家屋 名川草子

△和歌山公娼設置問題再興に付きて

△飲酒の害 大澤醫士

○家庭欄

△子女の教育につきて 巖谷小波先生

△家庭の小事務と知徳の修養 江原素六先生

○雁の音

○前橋の二日 百合子

○文書課より 水野菊子 安井花子

○内外通信

本部、城北、和歌山、静岡、弘前、堺、大坂

社告

◎婦人新報定價(郵税共)

一部(前金) 金六錢

六部(前金) 金三十五錢

十二部(前金) 金七十錢

(郵券代用一割増)

◎廣告料

一行(五號活字) 金十錢

明治四十三年十一月十四日印刷
明治四十三年十一月十五日發行

發行兼印刷人 本多アイ

編輯人 横倉ヒデ

發行所 婦人新報社 東京市本郷區蓬萊町六番地

編輯及事務所 本郷駒込蓬萊町六番地

No. 161. November 1910

WOMAN'S HERALD.

CONTENTS.

Fight against the Public Prostitution and keep thy honor oh Citizens!

Our Comrades, pray and sympathy for the Wakayama ladies who are fighting against the public prostitution!

Beware of the drinsing "Sake."

Home Department. Golden rules given by Mr. Iwaya and Mr. Ebara.

News from the Alps.

Two days in Maibashi.

Temperance Literature Dept.

W. C. T. U. News.

Headquarters, Joboku, Wakayama, Shiznoka, Hirosaki, Sakai, Osaka.

FUJIN SHIMPO OFFICE.

No. 6, Horaicho, Hongo, Tokyo.

70 sen per Annum. Single Copy 6 sen.

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人新報第百六十一號
（明治四十三年十一月十五日發行）
（明治四十二年三月十二日第三種郵便物認可）

社説

◎市民の威信と醜業家屋

社會が外面の美を保ち之に接する者をして、一種の快感を與ふる事を勤むるはまた文明の一部であると、故福澤先生が曾つて仰せられましたさうですが、或る意見に於て僅かに眞理であると思ひます、外部の美てある如く內部も之に伴ふ事は吾人の等しく切望する處でありますが、複雜なる今日の社會にはなか〳〵に理想の半にも達する事は出來ません、吾人固より白く塗りたる墓の如き、虛僞の文明を希ふものではありませんが、僅かの歲月と勞力とを以て理想鄉を容易く夢るなどは、まことに思慮の乏しい淺薄な事であると思ひます、一個人の人格を造る上に於て、また一家の美はしき家風を造る上に於てすら、幾多の奮鬪と苦痛とを忍ばねばならないのであります、況して千差萬別個々の意見を行はんとする幾萬の個人より成立する此の社會に於て、如何で苦戰奮鬪せずして、一朝の成效を期する事が出來ませう、また順序を蹈まずして、一躍的の理想實現の夢を見る事が出來ませう、知識に於て或は兵力に於て世界の文明國と肩を幷ぶる我國の社會が精神上に於て眞の文明國として、宇內に誇る事が出來るであらうかと思ふ時には、心ある人は必ず苦痛を感ずる事であらうと思ひます、個人の德性社會の道德は如何であるか、まだ〳〵幾年かの修養と奮鬪とを要する事でありませう、吾人內に顧みて先づ自を修養して、外目にふれ耳にする惡風醜弊の矯正に勤むる事は今日の急務であらうと思ひます、曾つて宇都宮市に旅行しました時此市の名物は監獄の高大と遊廓の結構壯大であると云ふ事を聞いて、實に其市民に尠なからざる同情を持つた事があります、然しこの事實は決して珍ら

しい事ではありません、地方に行つて見れば十中の八までは、其市邑の裝飾は實に醜業を營む家屋であります、尤も繁華なる中央に位して時々刻々人心を腐蝕するバチルスを吐き出して行く此の家屋、之れが市民の威信を傷け墮落せしめて行く事を知らぬ人が實多いのであります、却而此の如きの家屋が市邑の財源である如く心得て、其爲めに腐心する人もまた多いと云ふ事であります、しかも其人々の中には常識の發達した人と他人も吾をゆるして居るものも多いと云ふ事であります、吾人は風俗の上に於て國家の體面上若しくは人類の幸福秩序を保つ上に於て、何故吾國にのみ公然と醜業を營むのを認めて居らるゝのであらうと實に疑ふのであります、若し奴隷賣買が人道に戾つて居るなら、婦人の生命である貞操の賣買はより以上の人道に對する大罪惡ではありませんか、若し我國の人々に、ストウ夫人のアンクルタムを讀みて、自由を尊ぶの念あふれて蹶起したる、米國人の如き熱き血と正義を慕ふ强き念とがあつたならば、どうして之を默して居る事が出來ませう、長き習慣と歷史上によりて之を一朝一夕に撤去する事は六ヶ敷い事でありませうが、社會の人が此問題に思を運ばせる筈であらうと思ひます、若し白中裸體のまゝにて大道を濶歩する者があれば人之を見て何と云ふてせう、また之を熟視するに忍びない事でありませう、然らば公然淫を鬻を認めて平然たらば、局外者其人々を稱して狂者と云ふ事でせう、さるを近頃和歌山縣に於て、公娼設置の運動起り、正義派の人公娼派の人の爲めに傷けられたと云ふ事であります、公娼の設置なきを以て譽とする否譽たる和歌山市の市民は慥かに醜惡なる營業家屋の永遠に此地に顯れざるを切望せらるゝでせう、市民は必ず立つて正義の人々を助けて奮鬪せらるゝ事でせう、人の子を死地に陷穽れたる財を以て、市の財源を造らんとする暗愚極まる、彼等醜業者の姦手段に弄せらるゝやうな事は決してないと斷言する事は出來ます、公娼全廢に供ふて色々の弊害が起るかも知れぬがそれは一時的の事でありませう、衞生と道德とは時々相一致せぬとは、

公娼派の口實でありますが、公娼の有無に不係、不潔な空氣は個人の人格が高められざる限りは必ず社會のいづれにか漂ふのであります、市民の目に近き處にしかも公然と此の如き醜業家屋の絶對に社會に埋られる事を切望するものであります、せめては公娼全廢の第一著として、人家と軒を並べて怪しき營業をなす者をして、市民の目に近く映じない處に退去を命ずる事になつたならば餘程風俗匡正上に効果がある事であらうと思ひます、聞く所に依れば待合の如き曖昧なる家尾に隣れる、近傍の子女の風儀は日に亂れて行くと云ふ事であります、善良なる市民の威信を保つ事は、道路の修繕家屋の整頓交通機關の完美ばかりではありません、實に此の醜業家屋を絶對に市外に遠ざけ、進んでは之を社會から葬むつて、不潔淫猥なる空氣を一掃する事であると信じます、吾人は決して外面の美に迷ふものではなく、內部の健實を希ふの念禁じ難きをもつて、先づ目に尤も近く映ずる惡風の矯正に世人の意を注がれん事を希望するものである

◎和歌山市公娼設置問題の再興に付て全國姉妹に訴ふ

風俗課長　名出景子

日本全國中公娼なき所の一として其名譽を有せる和歌山にては、先年來屢〻設置運動を試しも、皆成らずしてありしも、利の外何物をも見る醜業者と之に動されし市會議員等絶へず運動し、終に本月五日設置の建議案なる者出しが、本會議に先ちて秘密の協議會を開しに正義派議員柴田太平氏は腕力に訴へられ、終にナイフにて顏を斷られ鮮血淋漓として一大修羅場を演ぜし椿事ありしを以て、直に大阪會頭林歌子姉に同行を乞ひ急行柴田氏の負傷を見舞ひ、且つ教會の牧師瀧本、岡本二氏同行して縣知事、警務長、市長、三新聞社等を歴訪して設置反對の意見を述べ其盡力を依賴せしに、恰も好し和歌山新報社は極力反對に盡くし且十三日を期し市民大會を開くの擧あり、矯風會よりも辯士を送り呉れとの事にて協力運動を約せられ、又一方に

てはこれを機として各教會姉妹等聯合して婦人矯風會を組織せらるゝ事となり十三日其發會式を擧ぐるの時機を與へられたり是より此機會に於て生れし和歌山婦人矯風會員諸姉の責任實に重且大なるを想ふ全國同志の兄弟姉妹に御熱禱と御助力を切に仰ぐ

左に和歌山新報の記事の一部を轉載せん

公娼建議案市會に現はれんとす

無隔生

我縣下置娼地の實況に就て觀察せよ今より五年前、時の縣會が最も笑ふべき理由の下に公娼設置の建議案を通過したりし當時吾人は極力置娼の不可なる所以を論じ例を引き證を擧げて置娼が社會に流す害毒の如何に深甚なるべきかを說き大に警告する處ありしも、大聲は俚耳に入らず、何物かに飢へたる人の心は容易に動かすべからず不幸にして天下に誇れる我縣の歷史も一朝其脚底に蹂躙せられ多年の良慣美俗は一片の縣令に依て破壞せられ終り一團の醜漢が地所買占に依つて暴利を得たる外、縣民は何の得る所もあらざりき、爾來玆に五星霜公娼設置地たる東牟婁郡の天地は全く淫風に蔽はれ妖霧に閉され日に墮落の深淵に陷りつゝあり、心ある良民の等しく顰蹙を禁ぜざる所且つ夫れ當初繁榮を期待せし新宮町商工業の如きも置娼の爲め何の得る處なきのみならず却つて反對の結果を現はしつゝあり蓋し商品の顧客は去つて遊廓に走り其財嚢を傾けて淫蕩に投ずるが爲なり所謂「お山買ひの尻切れ草履」なる古諺は最も痛切に新宮町の商工業者に理解されつゝ置娼は商工の衰頽を招く原因たる事を證據立てつゝあり、此中に立つて獨り繁榮する者相筋に一區を劃する遊廓あるのみ今や娼妓の數は殆んど百名に近く藝妓酌婦密淫私娼何れも驚くべき勢を以て增殖し今や新宮町は三百餘名の醜業婦と之に關係ある鬼の如き不頼漢數十名を養ふに浮身を窶しつゝ之が代價としては花柳病と破産と爭闘と墮落の犯罪人とを受取りつゝありと新宮町も亦光榮なるかな

以上論ずる處に依り讀者は實際問題として公娼の百害ありて寸益なきを知悉せられたるならん、吾人は更に

之を國體の上より國家の位置より人道の上より人文の關係より論究して根本的に公娼の亂倫悖德なる理由を明らかにし公娼は當代に容すべからざる極惡制度たる以所を明らかにすべし

飲酒の害

醫學博士　大澤謙二君の演述

私は茲に掲げられてある『飲酒の害』と云ふ題て一寸申し上げるつもりてすが、此事に就ては度々申し上げました故格別是ぞと云ふ新しいことはないのてあります。併し禁酒會の大會に於きまして。私の考へたことをば申しますことの出來るのは甚だ光榮と存じますのてお聞きを願ふことに致したのてあります。私が酒と申しまするのは。米て造つた酒ばかりてはない。總て酒精即ち「アルコール」を含んてゐる飲料を總稱致します。味淋ても、燒酎ても、葡萄酒ても、「ブランデー」ても、「ウイスキー」ても、酒精を含んてゐる酒を總稱致しまして話を致すのてあります。此酒が世に如何なる害を及ぼすかと云ふと、身體に及ぼす害即ち酒を飲む人個人に及ぼす害、それから子孫に及ぼす害が澤山御座います。

酒は一の毒物てある。それて私共は酒に醉うたことを中毒と申しますが、是に急性中毒、慢性中毒の二つの別を立てる。急性中毒と申しますのは即ち酒に醉うた狀態、酩酊の狀態を申します。是は諸君も御承知てあらうと思ひますが、一寸申しませうならば此急性中毒の極く輕度にありました時には精神が、少しく發揚致し、擧動が活潑になる位なものてあります、稍度が過ぎる、即ち中等度になつて參りますと思慮の敏捷を缺き、注意周到ならず、理解する力は澁滯致し、記臆の力は減ずる、斯やうな譯てありますから、沈思默考することは出來ない。更に自負尊大になり、人を嘲弄するなど、又高度の酩酊になると、情緒は紊亂し、美德道德的の觀念は漸次消却致しまして、自守自制の念は益々侵害され、其擧動は破廉恥となり、其行爲は躁

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

暴となり、斯やうに致しまして色々な悪事を働くのであります、即ち數へ立て見ませうならば、誹毀罪、侮辱罪、風俗を害する罪、猥褻罪、道路妨害罪、家宅侵入罪、安寧妨害罪、虐待罪、歐打罪、創傷罪、甚だしきに至つては殺人罪を侵すのであります。是等の事は日常の新聞を少しく注意して御覧になりますると云ふと殆ど毎日のやうにあるのであります。其外鐵道の遭難、船舶の遭難でも矢張此高度の酩酊の爲起るのが多い。統計に依りますると、鐵道の事故などは其四割と云ふものは鐵道員が酒を過したゝめに起りました。又船舶遭難の五割と云ふものは酒の爲に起つたのであります。是は確な統計に依つての話てあります。其他工塲などの遭難、是も矢張酒の爲に起るのが多いのである。それで更に是を調べて一週の中、どの日が一番多いかと申しますると、固より工塲に依つて其休日を異にするてせうが、先づ概して月曜日が多い。それは即ち前日、日曜であるが故に、酒を少しく飲み過ぎた其悪影響が翌日持ち越したのであります。又一日の中では午後就中夕方が多いのである。是は心身が疲れたのみてはない。晝後には此休憩の時間を利用して酒を過したと云ふ、悪き習慣でありまする。て斯やうに酒の爲に害を蒙りましたことは澤山あるのであります。併し高度の酩酊になりますると云ふと、遂に其結果死んでしまう。急性中毒の即死である。東京あたりて燒酎を飲み過ぎて其儘死んでしまう人間が幾人あるか、決して少なからざる數であります。是等の酒の害は諸君は大抵目撃なされて御承知であらうと思ふ。次に申します慢性中毒、是は諸君の多くは御承知でないでありませうか、鼻であるとか、咽喉であるとか、胃であるとか、腸であるとか云ふ部分に加答兒を起すので御座います。それからして肝臓は初は膨れ上り、後には萎縮する。脈管は軟化開張致しまして、心臓は肥大しまして後には脂肪變質と云ふことに陷りまして、脈管も心臓も破裂し易きことになります。彼の脳溢血と申しまして、俗に所謂卒中てあります。それが爲に死するのもあり、或は半身不隨となつて人の厄介にならなけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ればならぬと云ふことになるのであります。其外腎臓は炎症を發し、變質を致し、呼吸器も亦加答兒を發しまして、是が爲には段々弱るものと見えまして肺結核に罹り易い。御承知の通り此肺結核に罹る者の其多くは酒から來るのであります。酒を飲む人に多いのであります。それから此腦に及ぼす影響は是は隨分大なるものである。甚だしきに至つては氣狂になつてしまふ。酒を飲ませますと先づ目が凝りまして所謂醉眼朦朧となり、呂律が自由に廻らなくなる。で酒をば毎日々々繰返しますると酒の爲めに腦の細胞が弱るのであります。一體腦は我身體の中でも最も精細なる貴重なる機械で極く込み入つて拵へられてある、身體の中でも最後の働きを致すものであります。そこで酒の害を蒙りますることは最も腦が甚だしい。御承知の通り目下此生存競爭の爲に腦を痛めることは非常に激しくなつて參りまして、是が爲神經衰弱を起すなどゝ云ふ人が次第に多くなつて參り、それに搗てゝ加へて酒の害を受ける。遂に腦は痛まざるを得ないのでありまして、或は知覺、運動、麻痺を來し、或は躁狂を來す、又自殺するやうになつたり、或は全て茫然と馬鹿になつたり、さう云ふやうな氣狂は全く多いので、皆慢性中毒の爲であります。あの巣鴨病院に入院してゐる其患者の三割以上と云ふものは酒の爲に氣狂になつた人であります。其外目や耳、就中目が侵され易いのである。斯やうな工合に慢性中毒の爲には身體が次第に弱くなつて參ります。それ故に病に罹り易くなる。先刻肺結核になり易いと申しましたのは酒の爲めに腦ばかりではない。種々なる機關が痛みまして、病に罹り易くなりまするし、それのみでない、却つて病が容易に癒らん。身體の強い人でも酒の爲に身體を痛めてゐると容易に癒らぬのであります。即ち病に罹り易く、一旦罹つたら容易に癒らぬ。就中傳染病に罹り易く、急性並に慢性の傳染病と申しても分りませんが、赤痢、實布的里亞の如きは急性で、肺結核などは慢性であります。此急性、慢性の病氣に罹り易くなる。併し我々醫界に於きましても免疫性と云ふて病氣に罹らぬ方法を知つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居ります。即ち植疱瘡をするとか、是は免疫性てあります。疱瘡ばかりてはない、其他腸窒扶斯に罹らぬやうに、實扶的里亞に罹らぬやうに、免疫性を與へることが出來るのてあります。それが酒を飲むと云ふと實際困難てある。或は天然に免疫性を有つて居ります動物、或種類の傳染病には少しも罹らぬと云ふ性質の動物でも、酒を飲ませまするると遂には免疫性が消滅致しまして病に罹るやうになります。是を思へば酒と云ふものは實に恐しいものてある。左樣な次第てありまするから、壽命が短縮される。例へば滿二十歳に達した人、此人が此先き何年生きるかと云ふことを統計に取つて考へて見るに凡そ二十歳に達したる男子であると云ふと、此先き四十二年は生存し得ることは普通てある。此先き四十二年と云ふと六十二歳迄壽命がある譯てあります。所が酒を飲むと云ふと四十二年の壽命期間が三十二年、即ち十年程壽命が短くなる譯てある。英吉利の統計に依つて見るに、二十五年に達した英吉利人は此先き三十六年生存することが平均數てあります。然るに酒を飲む者は三十一年て死んてしまう、即ち六年程命が縮まる譯て、斯やうな統計は普魯西にも御座います、先づ一身に及ぼす害と云ふものは斯の如くてあります。

所が此酒の害と云ふものは飲む人一人に止まらずして其子孫に及ぼす害は實に恐しいものてありまして、第一に酒を飲むことが少ない家ては平均四人一分、一夫婦の間に四人の子供が出來るのが平均數てありますが、然るに夫婦の一方が酒を飲みまするると云ふと、一人三分しか出來ない。双方飲むと一人も出來ない。大變に生れる數が少なくなるのてあります、それからして酒を飲む家族、廿一家族を調べたのてありますが、それが十家族は夫婦子なし、十一家族は二十四人平均二人、先づ當り前の四人一分に比較して非常に生れる數が少ない。是れ中々重大なことてあるから人口の多いと云ふことは國家に大切なることてあります。度々申しますが、一千八百七十年——七十一年にあつた彼の獨逸と佛蘭西との戰爭、此戰爭が起つた當時双方共

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人口は同一で、凡そ四千萬位であつた。然るに其後四十年を經た今日に於て考へて見ると、獨逸は六千萬少しく上にありましたが、佛蘭西は種々なる原因の爲めに人口がサッパリ殖えない。少し宛は殖えて居りますけれども餘り增さない。まづ四千萬位に止つてゐるのであります。僅か四十年の間に獨逸は三分の一の人口を加へたるに反し、佛蘭西は餘り增さぬ。さう云ふやふな譯であるから外のことはさて置きまして、單に人口の上に於きましても對等の戰爭は出來ない。此人口が少なくなると云ふことは國家に取つて重大なる關係を及ぼすものであつて、いざと云ふ時には人が澤山なければならぬ。即ち今申したことは酒を飲むと子供の生れ方が少ないと云ふたのでありますが。次には子供が早世する、生れても弱くつて育たぬのである。それから酒飲の子孫は惡性となり、不良少年となり、色々な犯罪的行爲をなす、若くは生來馬鹿か、さう云ふ譯であるから其子孫に及ぼす害と云ふものは恐しいものでありまして、酒飲の家が四代も續けば子は出來なくなつてしまふのである。子は健康に生れる權利を有つてゐると言ひますが。それが親爺が酒を飲みまする爲に腹の中で死んでしまふ。或は生れてから二三年經たない中に半分以上死んでしまう。それから育つた所で弱い、斯ふ云ふ譯であると實に氣の毒なものであるが、酒飲む人が自分一人が酒の害を受くるのであると思ふのは間違ひであります、子に及ぼす害と云ふものは今申した通り餘程謹まなければならぬ、まづ子孫に及ぼす害を申せば斯やうなものである。(國の光轉載)

家庭欄

◎子女の教育に關して

巖谷小波先生

△誤りたる個人主義

長者に對する禮儀が薄らいで來たのは、獨り一部の社會ばかりではなく、全般に渡つて皆さうである、今日の日本は成金のやうなもので、外國から個人主義を吹

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きこまれて、充分に咀嚼する事なく、丸呑にした結果か、禮節を重ずる美風が頽りかけて來たのである、外國人の個人主義は秩序を經て得たものであるから、禮義と云ふ事なども、充分に心得て居る、それにまた日本の華族は誰れでも家來のやうに思つて、人の名を呼び捨てにする傾がある、されば家庭教師などに對しても、兩親から雇者扱にするので、從つて其教を受くる子女が少しも尊敬いたさない、醫者などにしてもさうである、誰を呼べとかなど横柄に構へて、他人の價値を少し認めぬかの嫌がある、

○母親に對する三箇條の要件

△第一現代の教育に注意する事

第一母親は子供を教育するに當つて、まづ現代の教育法を研究せねばならぬ、時代思想は常に變遷して行くものである、從つて千古變らぬ考を以つて人を同じ型の中に教育訓陶いたさうと思ふのは大なる誤りである而して母親たる者は現代の教育は如何であるか位は、觀察し得る丈の能力を養ふ事は大切な事である、若し出來ぬなら子供の教育の責を他に任するがよいと思ふ

△第二は通用せぬ事を持ち出してはならぬ

兎角親は自分の子供の時の事など持ち出して、自分の受けたやうな教育法を行ひたいと思ふものである、之れは大なる矛盾である日に〱進み行く子供の思想を舊式な今では通用のきかない方法を以て、立派な人に仕立上げやうとする時には、子供の方から見たら實につまらない事だと思ふ、從つてその母親の威を損ふやうになる、また勤めて時代の精神に鑑みて教育せんとする學校教育にそむくやうにもなつて、玆に精神感化上大なる矛盾が起つてくる様になる、また學校の教育などに於ても時代の精神をしらずして育英にたづさはつて居る物もあるが、之は特に地方の高等小學中學校に於て痛切に感ずるのである、之が爲めに先生と生徒等の調和を欠く事が多いのである、即ち地方の教師は村夫子的になつて行くに反して、生徒は讀物により或は種々の方面から新らしい思想を注入せられ、一方は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

どし〳〵新しき方面に進んで行くのに、一方は停滯して云ふ處矛盾が多くまた理の急所をつかまひると云ふ事は出來ない、然れば生徒に滿足を與ふる事が出來ないのみか却て輕侮を受くるやうになる、

また母親は自ら子供の位置になつて、同情を以つてやらねばならない、自分の子供であつた時には矢張斯やうな事もあつたと、同情のない咎立をしてはならぬ、

私はいつも日本人には意思の教育が必要であると思つて居る、まあ例を擧げて見ると

日本の母親のは消極的(忍耐)の意思(云はゞ自殺してのロ言)

西洋の母親のは積極的(主張)の意思(云はゞ主義あつての口言)

て大に相違がある、マア日本の母親は子供に對する時には、自分を殺して耐え〳〵て意を通すが、西洋人は同じ意を張るとも、主義に立つてするのである、されば口言を云ふても日本の母親の多くは自分の都合上からである、一とつの菓子を與ふるにしても、都合上からで決して主義あり主張あつてではないのである、之は大に愼しまねばならぬ事であつてつまり母たるものゝ威信をおとす元となるのである

△子供の訓誡につき父母の意見の一致を要す

之れはどこの家にもある事であらうと思ふ、父と母との打合がない爲めに、命令が二途になつたり、訓誡が齟齬する事がある、よく子供が母親に何とか求める時には母親は子供の執着がうるさくなつて、父親にをし付くる事が間々ある、例令ば女の子が奇麗な着物が着たいと思ふ、母親は之を着てはならぬと云ふ、それでも子供はうるさく付き纒ふから母親は遂に父に伺つて見よと云ふ、さうすると父親は餘り細い事に頓着しないから著てもよいと云ふ、さあ、こうなると母と父との意見が全く一致しなくなつて、子供が段々と母親を輕んずるやうになる、私共の家庭に於てもかやうな事かまゝある、之はつまり兩親の間に打合がないからである、斯樣な事が幾度も重なるうちには、親の威が全くなくなつてしまうから又此の點にも注意せねばな

らぬ。

△第三家事向の事は子供には秘し置くべし

能く人によつては、父様は事業に失敗して皆が困つて居るのだから、お前も其のつもりで居らなければならないなど丶、徒らに小さき胸を痛めるやうな事を平氣て子供等の前て云ふが、それは子供の性格を造る上に大なる悪影響を及ぼすものであることを忘れてはならぬ、ひねくれたいぢ〳〵した子供はよくかやうな家庭に於て見るのである、また餘りきびしく一から十まで干渉がましく子供を育てると恐ろしい結果を來す事がある内に居ては蜆貝外へ出ては蛤貝と云つて、家て餘り厳しくすると、他人の家に行つてから、實に困つたたちの悪い事をする、然れば私はいつもさう申す事てある

△家てあばれる子供は却て他人の家に行つては靜かてある

決して心配するには及ばない、家ては束縛も受けず自由に飛び廻つて随分家内のものが、他人の家にやる事を氣使ふが案外安神なものである、斯様な子供に限ぎつて、性質は純白で無邪氣てまた大様てある、

△愛の中毒は恐ろしいものてある

之は多く一人子に見るのである、愛するの餘り一から十まで親が干渉して、少しの自由をも與へない、之は完全にしたいと思つて教育する方法が誤つて居るのであるから、其結果虚言を云つたり、人の物を取つたり、悪い智を他人に付けたりする夢め過度な厳重な躾をいたしてはならぬ

△子供は母親の鏡てある

事を忘れてはならぬ、子供を見ると直ぐ其子供の母親が偲ばれる、母親は子供の監督者であると同時に子供に監督せられるのである、母親は子供によつて自分を修養するのである、子供の前ては凡ての事に一々氣を付けてせぬと、早速恐ろしい反響があるものである、親は自分の姿が常に子供によつて顯はれる事を承知して置かねばならぬ（文責記者にあり）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎家庭における小事務と智德の修養

江原素六先生

吾々の智德は、家庭に於て日々行ふ所の、些々たる事務に對し、能く之を敬重して、處理するときは、積んで習慣となりて、必らずや智德を陶冶し得るものである、即ち家庭に於ける小務は、朝により夕べに至るまて、陸續として間斷なく生ずるものである、この陸續として間斷なく生ずる所の、小事務に對して、之を敬重するときは智識の發展となり、品性の向上となるのである、

北條氏康、ある時、其子氏政が食事を爲すを見て、卒然歎息して曰く、我家氏政に至つて亡ぶべしと、侍臣其故を問ふ氏康答へて曰く、今氏政の食事をなすを見るに飯に汁をかけ、一口食して尙ほ足らずして汁の掛足をなしたり、凡そ人は一日三度づゝの食事をなすものなり、少しく心を用ゆる時は、汁若くは茶をかくるとき、適當なる分量位は、容易く熟練すべき筈なりかゝる些々たる事に不熟練の樣では、必らずや大事に臨んで、失敗を招くに至るべしと、果して氏政の代に至りて亡ぶるに至つたのである、

明曆のころ京都深草の邊りに、元政といふ有名なる高僧が有ました、其日記に「草紙をこしらへるとて紙を折る、一僧前にあり、其を是へ賜り候へ、折候はんといふ、予曰く是修業なり、心から斯くひづまぬやうにすれば、能く揃ふのみならず、心も正しうなるなり、手を以てのみすることとは、是に限らず、何事もうるはしからぬものなり、戸のたてあけをするにも鳴らぬ樣に心をつけ、はき物をぬぐにもゆがまぬ樣にするは、見聞のよからん爲にあらず、心を修めん爲なり、見聞のためばかりにするは、甚敷き時は誠に業とも成るべきなり、心をつくべきなり、凡そ何事も修業にならぬことなしと、

支那に於ては、家庭敎育の必須科目として、灑掃應對進退の節に重きをなしたことは、大に參考とすべきて有る、目今の靑年男女のうちには、灑掃應對進退の節

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

につきては、殆んど無常識の者も少くは有らぬ、たとへば室内掃除の如きも、普通の順序を以てすれば、第一疊の上に散亂してあるものは、悉く片附け、紙屑は屑籠に入れ、屑籠へ入るべからずして、しかも焚き得る者は、之を竈のほとりに運び椽先へ掃き出すものは全く塵埃のみにして、苟も形あるものは、掃出すのではないのである、

然るに今日の青年男女の掃除の仕方は、室内を充分片附ずして、障子や棚の塵をはたき、其はたき方も上の棧より順次下棧をはたくにあらずして、或は中棧から又は下棧から而も棧をはたくに非ずして、紙をはたくのである、而して紙屑切屑竹の皮など庭先へ掃出すのである、掃溜と庭との區別を知らぬ人も少く有らぬ、此の如きの人は、屢々指輪鈕紐小印鍵などを、或ははき出し、又は屑籠へ入れるのである、即ち手を以てのみすることはうるはしからぬもので有ます、

本年五月廿八日、國民新聞の記事に有ましたが、北白川宮妃殿下は、一日年久しく御奉公せる侍女の一人が遠からず御殿を下りて、他へ縁附くべき者が、裁縫を片附ながら、其邊りに散かり居る、眞綿屑を丸めて、屑籠に投入れたる樣を御覧じて、只今のものは何かと御尋ねあり、さて仰せらるゝ樣は、御前は近日一家の主婦となる者なるに、かゝる始末は何事ぞ、一家の主婦の如何は、屑籠によりて知らるゝといふことあり、能く心を用ゐねばならぬと、御諭し遊ばされたと有ます、誠に有難きことゝて有る、即ち手のみを以てすることはうるはしからぬものである、

二宮尊德翁、或る日、食事に向ひ香物をたべ樣としたところ、よく切離してなかつた、一切を取ると、共に他の切もつながつて下る、尊德翁は、其下婢を呼んて、喩されますには、物事は何に係らず、心を用ひず、手のみを以てすると箇樣に見惡きものなり、もし心を用ひて切るときは、只庖丁を向ふへ押すのみでなく、必らず之を元へ引いて、能く切れたかどうかをたしかめねば、満足が出來ぬ筈である、香の物のきれるきれぬは、些細のことなれども、一事が萬事て、この些細の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことに、心を用ゆることが、大きなことが立派に成功するのであるとて、下婢に命して、香物と、俎板と庖丁とを持ち來らしめて、そこて實際切らせたといふことである、即ち口先のみの敎へ方てなく、實行せしむるといふことが、二宮翁の主義てある、

私の友人に夫は茶人にして又報德の主を信じ妻は小笠原流の女禮式に堪能なる家族が有ました、其家庭へ懇意の者より預りました一人の青年婦人が有ました、裁縫割烹など一と通りは出來ますが、悉く女學校式だと申します、其灑掃など、所謂手のみを以ていたします、或時机の上をはたきて、次に床の間をはたきました床に掛けてある軸物に黑の飛白が澤山出來た、即ち硯に墨の有るのを搆はずはたき、はたきの先きについてあつた墨が付たのてある、手のみを以てすることに、うるはしからぬものてある、

故に庭前へ紙屑などを掃出すことは固よりのこと、或時すさまじき勢てスリッパを二三間先きの泉水の中に浮べたことが有つた、即ちスリッパの進水式をやつたのである、即ち其主人は、二宮翁の香物主義の如くて、其美人が掃除の時、自ら紙屑其他を拾ふて實際に模範を示しました、遂に庭前へ紙屑などを掃出すことはなくなりました、しかし其屑籠を見ると竹の皮、經木蜜柑の皮コロップ、煎餅などが投込んであるといふ始末てあつた、

其美人片手に急須の蓋を持ち、片手に鐵瓶を持つて、湯をつぐ主婦は深切に敎しへました急須の蓋は下へおき其手を鐵瓶の蓋に添へて湯を注げ、果して蓋が落ちる、急須を割る其青年一度び急須の蓋を持ちし時は、辨慶蟹の物を挾んだ樣に、容易く手から放さぬといふ有樣にて、遂に片手て、急須の蓋を持ちたる儘、其急須の蓋にて、鐵瓶の蓋を押へるといふことて有りました、妻君曰く、二十世紀式發明の小笠原流だろうと申して笑つておりました、

斯樣の青年に限りて、茶碗などを洗ふにも、大きな桶へ入れらるゝだけいれて、其中て洗ひますから、どの茶碗もどの皿も、必ず少さき疵が出來るのてある、若

し別に小さき桶へ水を入れて、其中て一ツヽ洗へば、洗よくもあり斑も出來ぬのてある、

余が親族の家にて永らく師範學校にて裁縫教師を勤めたものを聘しました、他日は他へ嫁くべきのものなれば、多少の訓育は傳へたしとの深切より其人に注意いたしますには先づ裁縫は敷紙、又は胡座の上にてすべし、試みに白足袋をはきて、半日室内をあゆみ見よ、足袋の裏は鼠色になるものなり、故に其汚れを避くる爲に、必らず敷紙胡座の上にてすべしと、又衣類をたたむ時も疊の上にて力をいれて皺を伸ばし、疊へ摺つけると皆汚れる、これ又胡座又は敷紙の上にてのばし疊むべしと、然るに其婦人敷紙の上に自身が座して反物は疊の上、胡座の上に自身が坐りて、同じく疊の上て裁縫もすれば衣類を疊むのてある、止を得ずして其婦人を斷りました、元政和尚は、手のみを以てすることは、麗はしからぬものなりと曰はれましたが、耳のみを以てきゝ、口のみを以ていふことも、同じく麗はしからぬものてある、むかしの家庭の教訓として「まだ、」「もう、」「とか」といふことを嫌つたのてある、まだと思つたらもうそんな時てすかといひ、又心を注いて聽くことをせぬ所謂トカ式談話となるのてある、トカ式談話とは一つの例を咄せばすぐに明瞭になるのてある、私の村て、十年前より開墾に着手いたしまして、未だ充分の成功ては有らぬが、兎に角、昨年開墾着手十年紀念祭がありまして、甚だ賑かて有つた、其時村長の報告演說は極めて明瞭てありました、即ち惣町歩三千町歩、其内一千歩山林が出來て、一千歩開墾が出來た、其開墾地より、東京方面に賣却した薩摩芋の代が二十五萬圓といふのてある、然るに其席に參列した教育ある青年婦人が私宅へ參り、私の母に咄をいたします、御婆さん、何んでも、何千町歩トカの內を何千町歩トカ山林か出來て、何千町歩トカ開墾か出來て、何萬圓トカ御薩をドコかへ賣つたとトカ何トカ申しました、即ち耳のみを以て聽き口のみを以ていふのてある、斯樣の人は留守中來人があつても必らず何トカといふ人が來られたといふのてある、

今日の婦人にして若しトカといふこと曰はず、出來得る限り、たしかに見、たしかに聽き、たしかに言ふことに注意する時は、人格は日々に高くなり智能は益々進歩するのである、就中婦人には美といふことは大切なる問題である、而して美といふ者は品性と知識の進むに從つて益々發揮するものである、かく家庭事務にして理想的に改革されたならば、一家の爲にも國家の益にもなるのである、元來物質に對する義務として衣服器具の汚損を警誡し、燃ゆべきものを空しく捨てず、紙屑を塵末にせざるときは、間接には山林の保護となり、水害豫防となるのである、今日の紙の原料は、皆數百年を經たる良材を伐りて、之を纖維に挫きて、紙に製するのである、故に一個の製紙工場が出來れば、鬱葱たる近傍の大山林は、暫時にして禿山と爲るのである、削りたての坊主頭へ、雨が降るとすぐに雨が襟へ流れ込むごとく、僅かの雨も禿山へ降れば直ちに土砂と共に河に流込んで、大水害をなすのである、故に婦人は家庭にあつて植林と堤防の大事業をなすことも出來るのである、

東京市の戸數が、三千七萬七千戸で、其家族より生ずる塵芥の量が、一ヶ年五千七百三十二萬一千貫目で有る、此塵芥を一車に七十貫ヅ、積むと、八十一萬八千百六十車となり、一車の長さが七尺とすれば其長さは四百十八里二十七町即ち奥州會津から肥前の長崎まで連續するのである、若し日本全國一千百萬戸の塵を積算すると、十七億一千八百十三萬貫目にして、之を車に積みて一列にすると其の長さは一萬二千五百五十里となる、日本朝鮮台灣樺太の領地を一回りして餘りあるのである、而してこの塵芥の殆んど半ば燃料又は紙の原料となるのである、

面積狹く又人口多き我國の如きは、之を外にしては、海外に大發展を圖ると共に、之を內にしては廢物利用と、物質保存の智德を脩養することは、國民の理想とせねばなりませぬ、瓢簞より駒が出るといふことがあるが、歐米に於ては石炭の煙の中より染物の原料を採り、炭燒の煙の中より酸若しくばアルコールを製する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のである、
此の如く家庭に於て能く秩序を守り、注意力を脩養する時はかの最とも怖るべき火災なども滅ずるのである即ち家庭訓育の習慣は本能的となるのである、元祿十四年十二月十四日赤穂の浪士吉良邸に討入、本望を遂げて引揚げんとする時、浪士中なる赤垣源藏矢部助武の兩人は爐又に火鉢に水を灌ぎて豫め火災を防ぎたといふ、これ平生の訓育本能的となつて咄嗟の時にも活用するのである、
即ち家庭百般の事務に心を注ぐの習慣を養成することは、知識の蘊蓄と品性の發展となり、國民の品性とを高尚にして國家經濟を補益するのである、而して其責任の大半は主婦たる婦人の責任でありますれば灑掃應對進退の節に注意せられんことを希望する所以である

○雁のたより

アルプス山峰の空に懸る國境より遥かに貴會御一統樣の御意を得るは小妹の滿足且つは喜悦の至りに有之候扨て御同樣に理想と熱望をアルプス山の莊嚴に擬ひ而も純潔なることアルプス山上の積雪皓々永久に消ゆるなき如くあらしめたく候
小妹は貴國の矯風會事業の御活動に常々興味を拂ひ居り候世界一樣に貴國の山水絶美を讃し候其國內に産聲をあげし白リボンの御手並の御消息も時々伺がひ上げ度候
小妹責任重き萬國青年基督教矯風會の書記たるは實に任不肖なる身に過ぐるを覺え居り候去りながら只一意道の爲めに微少たりとも致すを得ば是は取りも直さず妾等の敬慕するフランセスウエラド女史が希望にてありし理想を實現致す枝折と信じ滿足に存じ候女史の先蹤にして世を益せし立派なる婦人方もウキラド女史が妾等に摸範を殘されし如く矢張女史が踏まるべき足跡を措かれたり妾等は益々世の悲歎に沈む同胞に同情を與へ又世の罪惡と鬪ふべきことゝ存じ候
西曆千九百十年八月四日

スウッヲンドチャンバルド
エー、エー、スワンケカメロン

敬愛する　日本青年矯風會御中

世界矯風會青年部書記スワンケカムロン孃の御書簡とともに一筆申上度候偖て同書記の望まるゝ如く今年は前年に倍したる好結果を得ん爲に我等一人〳〵主の御保護の許に勤め度と存じ候又皆様に御記憶を願ふことは前大會にて相定まりし如く向ふ一年中即ち來らん大會までに各所の組より横倉姉の手を經て婦人新報に御記載ある筈の禁酒に關する文章又同じく禁酒に關する繪畫其他年中報告の最好結果と見なさる可きものに五圓宛の懸賞致しあり候まゝ何卒各部にてこの懸賞を御取りの樣御勵み被下度候

十一月十八日　ルース、フランセス、デビス

日本矯風會員御中

○前橋の二日

秋既に更けて窓外の野色何となく靜寂を告げて、人の心を引きしめるやうな日であつた、どんよりと曇つた空のうす寒く思ひなしか畠に働く人の手も心細さうであつた、洪水にあらされた田畠はまことにみじめてあつた、桑の木などの根こぎになつてあちこちと惟かく形づけられた樣や、稻穗の實のなきが田の畔に束ねばなしにしてあるなど、云ひ知らぬ悲哀を與へた、筑波の山も見えず漠々たるやせたる武藏野の小高き處に、黄菊白菊の咲き亂れて居るのが却て哀を染へた、收穫の乏しきなど考へて何となく陰欝に、同行者の間には長い沈默が守れたのも、一二ではなかつた、越路に歸へるさ吾が旅情を慰めて與れた、馴染の深い妙義榛名赤義の諸峯は僅かに中腹を示しただけて、あの雄大な姿で我を勵ましてくれなかつた、唯だ大利根の流を遥かに聞えた時に初めて活動の幕が開かれたやうに思はれた、間もなく前橋に着いた、岡部法相御夫妻の共進會へ御出になつたのを迎へる可く、市の貴婦人紳士方が色を競ふて、プラットホームに處狹きまでに佇立して居られた、勇ましき輪立の音を外にして、自分等一行

は直ちに上毛婦人矯風會の手になれる休憩場へと導びかれた、新築の小寄麗な家で入口に(どなたでもおやすみ下さい)といと大きく認めてあつた、屋内は二つに引切つて、一ヶ所は土間にテーブル椅子を置きて、來憩者を待ちがほてあつた、一つは疊敷て新しき疊の香も何だか温かになつかしく思はれた、ことさら自分の氣を引いたのは、專任事務員の二人の姉妹の服裝であつた、どこまでも禮儀を重んずるしるしに黑の紋付きしかもその紋は純白に染め貫かれた、吾會の徽章であつた、些細の事にも偲ばれる貴き高き思ひつき、自分は何とも云へぬ愉快を感じた、たぎる麥湯とお餅の御馳走も嬉しく、珍らしき菫花の白布を掩ふたテーブルの一輪さし咲き亂て居つたのもまたなくゆかしかつた顔手など洗つて直ちに共進會々場に導びかれた、雲全く晴れてよき日和となつた正門の側には婦人矯風會々場と筆太に記るされた掲示が一番先きに目に入つた自分は戰勝者のやうな一種の誇と愛の血潮の漲ぎる思ひをした、兎角社會から繼子扱されて居る矯風會が、

この公共の會場の正門に堂々と紹介されてあるとは全く破天荒の事だと思ふた、これによつて見ても如何に上毛婦人矯風會諸姉が市内の大勢力をなして居らるゝかを伺ふ事が出來る、樓上には既に高崎より藤岡より安中よりはた松原市富岡よりの諸姉、三々五々集へて樂しげに語り合つて居れる、何だか自分に印象の深いこの前橋に於て、同志の姉妹と久方ぶりに會合するのは云へ知らぬ喜びてあつた、第一回は各支部の報告やら奬勵やらにて無事にすんだ、矢島會頭は神山縣知事の招待を享けて、貴賓館の午餐會に行かれた、地方長官が彼の如く、矯風事業に同情せらるゝを見て自分等は少からず意を強うした、一時間餘の親睦にお互はどれ位の益を與ひられた事であらう、午後二時から第二次會の演說會が開催せられた、之れよりさき男女の會衆は陸續と入場せられた開會になるや殆んど立錐の餘地なき迄に堂にあふれた、來會者の中には六七里も遠しとせずして會せられたのもあつたと云ふ事である。矢島會頭の用意周到なる演說に次て、山室軍平氏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

例の熱烈なる辯を以て聽者の血を湧し、我を忘るゝまてに正義の聲に引き付けしめられた、最後に禁酒會の驍將安藤太郎氏は、快辯を揮つて禁酒の必要をのべられて、聽者の反省を促された、かゝる盛會は前橋に於ては稀有であつたと云ふ事である、實に上毛婦人の活動振は目醒しきものであつた、惠まれたる上毛の姉妹また責任の大なる事を切に感じられたてあらう、其夜は市外の物靜かなるグリストウオード女史の宅に招ぜられて、自分等の一行は平和な夜を過した、グ女史の衷心からのもてなしに、旅の淋しさもなかつた、明くれば點滴の軒端に聞えて今日の集の心もとなかつた、やがて秋雨もやみて雲の切間になつかしき光を仰いだ、ペトレー夫人の御親切により、令孃たちに導びかれて利根のほとりのそゝろ歩きに頭を洗はれて爽やかになつた、日本語をなだらかに語らるも、三姉妹の輕快に擧動はるゝ後より何にやかと語りつゝ樂しい半日を送つた、やがて共進會第一會場に供たれてあれやこれと品さだめするほどに、歸京すべき時の早や迫りたりとて、ペトレー夫人に促かされて停車場へと車を走らせた、空はかきくれて時雨し初めた、五六の會員諸姉と名殘を惜みて列車に乘ずれば、雨の音のしきりにてわびしく思をした、されど前橋の二日間はまことに樂しく、愉快であつた、貴き活動によつて與へられる滿足はまたこと更である、こゝに再び上毛婦人矯風會諸姉の御熱誠を感じ自分等一行を心行くまでもてなし給ひし御友情に對して謝する處である、ことにペトレーツ夫婦グリスウードオの吾同胞を助すけて、常に生ける働をなすの大なる助者であり、また先導者である事を記臆せねばならぬ

内外通信

○本　部

晩秋の空高く晴れて、小春日の心地せる、十一月十一日二日の兩日を期して、我が本部にては慈愛館、愛憐

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社の發展を計らんが爲め、家庭演劇を有樂座に於て擧行しぬ、一ケ月間の役員會員の斡旋と熱心と、數回の協議會の結果會衆は堂に滿ちて終始拍手賞賛の中に終決を告げぬ、劇は一時吾が讀書界を壓せし小公子物語にて、巖谷先生の譯せられし脚本にてありき、總明にして快活無邪氣なる小公子の誠意と天使の如き可憐なる行爲とは、頑冥峻酷我慾なる老伯爵をして、遂に我を折り溫情以て人に接するに至らしめたる實に好劇にてしかも其可憐なる小公子の背景には賢明貞淑なる母公のある事を觀者は忘るゝ事能はざりし、一度小公子の壇上に顯はれて活動するや、觀者皆我をうばれし感あり、而も其可憐の行爲に接する、有髯の男子もまた衿を濕さゞるを得ざりき、我等は此のダイヤログを見て、大なる好感化と教訓とを與へられぬ、幸に此の催しは兩日とも世の同情者によりて盛會を告げしは感謝に堪えざる所なりき收支決算報告は追て次號に掲載すべし

○十一月五日和歌山市に起りたる、公娼設置問題再興につき、風俗課長よりの通知に接し、臨時委員會を開き運動の方針を議したり、即ち會頭副會頭幷に書記は翌日內務大臣訪問請願する處あるべし、公開演說會の必要を求むる時は本部より辯士を送るべき事となし翌日內務省を音れしも折から、大臣には岡山市に開催せられし大演習に參列せられし後とて警務課長に面談縷々述ぶる處ありたり、越えて十六日再び常置員會を召集し演藝會入塲券の始末ならびに殘務を決了し、後ち和歌山問題に關し談時餘、幸に和歌山市旅團長夫人の上京中なりしかば、本部役員訪問して我等の意のある處を述べて援助を仰ぐ事に決したり、引きつゞき前橋市に於ける同問題も未然に防ぐの必要を議し同支部と交渉して何等かの方針をとる事に決し午後七時頃散會しぬ

○城北支部(新支部)

神田本鄕小石川三區聯合して玆に城北婦人矯風會なるもの誕生しぬ、十月九日午後二時より小石川區指ケ

谷町福音教會堂に於て發會式を擧ぐ、島田三郎先生の家庭と飲酒につきての有益なる演說の後ち、役員を選擧す左の如し

會　頭　阿部つる子　副會頭　大關和子
記錄書記　大澤とよ子　高橋とく子　通信書記　加藤きみ子
會　計　野口しま子

右終り毎月一回集會を開く事に決して散會せしは午後五時來會者五十餘名當日は女子學院教師安福姉、南波操子姉には特に音樂を以て此會に光彩を添へられし事は感謝に堪えざる處なり、會員數三十名

○上毛矯風聯合會報告

九月廿六日
愈〻休憩所を開始す休憩所は場外正門通りに傳道館と相隣合ひて借家し事務員として田中つる老姉及須田よし子孃を依囑し傳道館と相呼應して大いに活動せんとす

十月記事
日を經るまゝに休憩所も世の認むる所となり行人の疲れを休むるもの或は地方學生團の來憩するもの、數もいや增さりつはた吾黨關係者の便利は更にもいはず唯一椀の麥湯と雖もよく萬腔の溫情を捧げ得て自他如何に喜びに滿たされつゝあるかを思ひては事務員はじめ會員は奮勵せずして已むべきにあらざるなり殊に迷子事故も折節に出來し泣き叫ぶ兒童をなだめすかして數時間或は一夜二夜を事務員の手に保護を委ぬる事もありて其勞苦は一方ならずといへどもよく誠實に盡し居られ會員一同も當番を定めて交る〴〵出來得る限り働き居りぬ

十月二十四日
聯合會の働の一部として上毛禁酒會と聯合して共進會事務所樓上に於て矯風大會を開き洽く地方有志及學生團を招待す特に東京本部より矢島會頭横倉書記守屋少年部長の三氏來橋應援せられたれば我等は如何に心强く覺えしか司會者は高崎なる岡部なを子姉にして左の順序によりて執行せられぬ

一開會の辭　高崎　岡部なを子

一歡迎の辭　前橋　野口せい子
一答　辭　安中　根岸こう子
一祝　辭　知事及市長
　演　說
一矯風の精神　矢島揖子女史
一婦人と社會事業　山室軍平君
一獨　吟　ペドレー君
一大澤博士の禁酒論を讀む　安藤太郎君
一閉會の辭　司會者

吾等の祈空しからで小春の空いと心地よく晴れ渡りければ來會者約七百名過半は婦人女學生なりしは吾人上毛婦人矯風會として大に意を強ふする處にして滿堂の聽衆いづれも靜肅に感動の眼を濕して傾聽せられしは更に／＼神の前に感謝する所なり

〇和歌山市（新設支部）

拜啓陳者此度當地日本基督教會及救主聖公會に屬する有志婦人相計り和歌山婦人矯風會を創立いたすべく右協議會を本月十日ヘール教師御宅にて開催致し候處即座に加盟申込者十三名を得て茲に本會の成立を見るに至り申候

本會の設立は一部婦人多年の宿望に有之候處偶々此度當市々會に於て公娼設置建議案提出せられ爲に輿論喧しき折柄大阪婦人矯風會よりは態々此件につき會長林女史風俗課長來和せられ御熱心に當局者を訪問反對意見を述べられ候一事大に本會の設立を促す動機と相成茲に多年の機運熟し時勢の要求に應じて本會の生れ出でたる次第に有之候就ては愈々去る十一月十三日午後二時より救主公會堂に於て發會式を催し候集まれるもの大阪の林女史を初じめ當地婦人二十六名式に瀧本夫人司會の下に終始靈に充されて行はれ申候中にも林女史には矯風會の目的事業等につき餘す所なく述べられ且將來をはげまされて一同大なる力を得申候式後役員選擧ありて左記の通り當籤相成候

和歌山婦人矯風會役員

會長　瀧本光ゑ
副會長　岡本清子
書記　藤田ハル、三田村愛
會計　阪口幸子、島りき
課長
慰問課　村越いし
風俗課　河野よね
傳道課　田村くわ
母の課　吉村ますゑ
委員　土井やく、仙石けい
矢野さい、齋藤壽

爾來漸次に入會せられ目下三十一名と相成候

和歌山婦人矯風會規則

名稱及位置

第一條　本會は和歌山婦人矯風會と稱し十二番丁十三番地に置く

成立

第二條　本會は日本婦人矯風會と同盟して萬國婦人矯風會と連絡を通ずる者とす

第三條　本會は主として家庭の清潔を保ち禁酒禁煙の事業を振起し社會の風俗、敎育、衛生、其他一般の弊風を矯め社會全般の幸福を增進するを以て目的とす

組織

第四條　本會は汎く何人に限らず、本會の目的を贊成し自他の道德を進め社會の幸福を增進せん事を誓ふ婦人を以て通常會員とし、又男子にして本會の目的を協贊する諸士を推薦して特別會員とす

第五條　會員たらんとするものは左の誓約をなすべし

誓約

玆に上帝の補助により和洋一切の酒類煙草及び凡て風俗に害ある者を禁し社會の進德を計らんがために總て適當の方法を盡さん事を誓ふものなり

第六條　凡て婦人のために母の會を開きて家庭の清潔を圖り一般男子の爲には公開演說會を時々開きて社

會の警醒を促すべし

第七條　働きの課を分ちて四課とす

傳道課、風俗課、母の課、慰問課、

役員

第八條　本會に左の役員を置く

會長　一名　副會長　一名

書記　二名　會計　二名

課長　若干名　委員　若干名

役員の任期は一ヶ年として投票により推撰す課長及委員は會長の指命に任ず

集會

第九條　毎月一回役員會を開き又左の定時會を開く

一月　新年會　三月　母の會

五月廿八日紀念祝賀會　七月　公開演説會

九月　母の會　十一月十三日紀念總會

其他臨時集會を開く事あるべし

會費

第十條　通常會員は會費として毎月金拾錢特別會員は一ヶ年金壹圓以上を納むる者とす

第十一條　會員は常に白標リボンを胸に付け徽章とす

第十二條　本會員たるものは毎日正午の祈禱をなすべし

第十三條　標語、神のため、國のため、家庭のため唯此一事をつとむ

明治四十三年　月　日

和歌山婦人矯風會

事務所　和歌山市十二番丁十三番地

（河野通方）

○靜岡

去月二十二日午後一時半より追手町教會堂に於て江原素六先生を招請し講演會を開催せり氏は家庭の事務と智徳の修養(別項)テフ題下に有益なる講話ありたり當日は市内夫人女學生教師諸姉二百名程の來會者を見たり新入會者五名

十一月十二日午後一時半より英和女學校に於て例會を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

開きたり此の日は兼ねて協議せし如く會の發展を計らん爲め種々打合はせをなしたり當日議決せし重なる事は仕事部に置き委員として綾部鹿野中村の三姉を撰び訪問委員を置き新入會者希望者遠方にある會員の宅を訪ひ親密を計る爲めに毎月二名宛交替に當る事となせり將來大に活動し本會の基礎を定むる爲めに一同協力盡力せんと決し城姉の祈禱を以て閉會三時半なりき

○弘前市

九月廿四日午後一時半より元寺町教會堂樓上に於て例會を開き司會者高谷とく子姉の祈禱新內ふみ子姉の聖書朗讀書記前回記錄朗讀の後會頭高谷とく子姉婦人新報より當年七月東都に開かれし大會の樣子及當日本部會長の演說を來會者一同に讀み聞かせ猶色々の有益なる感話を述べられ讃美を以て閉會す當日は田澤姉の厚意になれる茶菓を喫し懇話の中に時の過ぐるを覺えず散會せしは五時頃なりき、來會者十六名

此日工藤ひさ子姉の紹介にて赤木はつゑ子姉入會せらる

○堺　市

十月例會開催の筈なりしが、恰も組合教會總會の濱寺に開かるゝに際し、婦人會と聯合して集會を開き星野光多氏を招聘す同氏は婚姻と禮服と題して有益なる講話をなされたり來會者二十有名

會後役員會を開き次回の相談をなす

萬代義太郎、宮庄二策の二氏特別會員となられる

○大阪市

秋季祈禱會

十月廿九日土曜午後二時より島の內教會に於て開かる當日は傳道課の働きとして課長二宮夫人司會せられ關東に於る京濱聯合婦人會と同題の（目を醒して祈れ）といふ題にて東西一致各派の別なく姉妹一同主の下に熱心祈禱を捧げられしは嬉しかりき當教會新牧師山

口君の奨勵ありたり第一同じ神を信ずる信徒殊に婦人の協力一致して共に祈り同じ行道をとり傳道に從事する事の必要急務なる事第二婦人は務めて愛心深く圓滿を缺ざる事第三忍耐を强からしむる事等に就き懇切なる勸めあり後又數名ほど熱心なる祈禱を神に捧げ司會者は此傳道の目的たる一年一度の當日祈禱會を今一層盛んに多くの姉妹の集まれん事を希ふ其理由は凡て萬物收獲を終へ休息の時期に至らんとする時祈りの修養滋養分を充分取らん事而して來春に於て凡ての課の活働に春花を開かしめ好果を得んには其根本的大切なる傳道課の祈禱を盛になすべき事を記憶せられて勤めて出席祈りを共にせられん事の奨あり五十餘名の來會者靈に滿され四時散會す

本日新入會員拾名

藤本かめ　宇都つる　ミセステーラ
山口金作　山口陽　野坂晴野
吉田わさ　石本まさ　古河
山本春

十一月二日水曜第一回理事會を開く豫て内務省へ出願中の大阪婦人ホーム財團法人十月廿四日日附を以て許可相成候に付出撰理事十五名ホームに集り登記のため調印をなす又以來毎年十一月第一水曜及五月第一水曜を以て理事會を開き庶務をとる事に決す

理事長　林歌子　　理事　石神八重子
今井のぶ子　大塚常子
緒方八千代子　緒方吉重子
加古幸ゑ子　田口たけ子
深澤ふく子　藤本榮子
淺井泰子　安東しん子
菊池しな子　宮崎優子
清水たね子　以上

十月分ホーム報告

頼り來りし者　五十二名
内譯
一奉公に入れし者　二十三名
一脱走し來りし者　十名
内慈惠病院へ入院養生中　名

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一滯在の者　四　名
一手數のみかゝりしもの　十五名

主任　林　依　子

○文書課より

秋の夜長のつれ〳〵机邊讀書の好時節と相成り候折から私共貴樣方の御書齋内へ是非共御案内申上げ度き書冊三部ばかり有之候「日曜日の山遊」「幼稚時代の教育」並に「禁酒演説集」之にて候はじめの二書は皆樣かねてより御存じの風間政子姉の堪能なる御譯にもされしものに候へば其内容の説明は今更私共の足らはぬ筆の力を要せずと存じ候

「禁酒演説集」は收むる所演説二十八番簡易にして而も至極面白き話に御座候懸賞文學會の興味深きは申上ぐる迄も無之御承知の事と存じ候へば新演説集出版の此際益々同會の振興を御はかり下され度く、それと共に同演説集續々御注文下さる樣御願ひ申上げ候

尚私共弱き者ながら極力不健全なる書類の人心を腐らせ行くを打防がん決心に候へば皆樣にも何卒御力御借し下され度くこれまた御願申上げ候書類御注文其他當課への御通信は凡て東京麻布區鳥居坂東洋英和女學校内水野菊或は安中花に御宛て下され度く候

但し、該冊子定價各々金四錢、禁酒演説集は金十錢に候

婦人新報代寄附金領收

一金十八圓八錢（四十三年度）オークランド
一金十九圓（四十二年度）ポートランド
一金三十五錢（四十三年後半期）新保きく子
一金七十錢（四十三年度）古田文子
一金十一圓（十月分）大坂支部
一金一圓四十錢（四十二、三年度）市川榮子
一金十圓（九、十月分）麴町支部
一金七十錢（四十三年度）赤尾安子

寄附

一金十圓　玉置酉久子
一金十圓　星かゑみ子

* * * * *

茲に謹んて右兩氏に感謝仕候本社の財政甚しからざるの時に當りて大なる補助と存じ候
右二十圓の中拾圓は約束郵便擔保にあて十圓は紀念として漢和大辭林を購買いたし殘餘を以て經費の不足を補ひ申候間左樣御諒承給はり度候也

婦人新報主任　横倉秀

◎クリスマスカアド各種

贈品用 書籍

※弊店出版
他店出版 各種

✡年末年始の贈品として書籍は最も低廉にして高尚なり

最新刊

大宮季貞編 犬の話 定價廿 郵稅四

毛利燕譯 格山のクリスマス 定價廿錢 郵稅四錢

古木武本合著 澤山保羅傳 定價六十五錢 郵稅六錢

發兌

東京京橋尾張町二丁目 警醒社書店

東京本郷春木町三丁目 警醒社支店

明治四十二年三月十二日第三種郵便物認可

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　株式會社秀英舍印刷